

## 平成29年度地球環境保全活動支援事業交付決定一覧

No.	補助金交付団体	事業の内容 (要約)
1	大野豆プロジェクト 会長 二川 幹生	<p>休耕地を活用して4種類の豆(大豆、黒豆、小豆、空豆)を栽培。地元の小学校・中学校・高等学校の生徒に対して地域学習の場を提供し、最近の豆栽培を例に地球温暖化への適応策等について環境教育を実施。</p> <p>また、豆を食材にした郷土料理教室等を企画・実施、「地産地消」の輪を広げ、循環型社会形成の意義を周知・啓発。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休耕地において、家庭の生ゴミから作ったたい肥を活用し、大野豆を栽培</li> <li>・大野小学校、香川第一中学校及び香川中央高等学校の生徒に対して、学びの場を提供するとともに、地球温暖化について環境教育を実施</li> <li>・地元グループと協力し、料理教室やコンテストを企画、実施、地産地消の輪を拡大</li> </ul>
2	一般社団法人 香川県産業廃棄物協会 会長 松本英高	<p>四国88ヵ所遍路道の清掃活動を地元住民(ボランティア団体を含む)とともに実施し、住民に対して環境保全の重要性をアピールし、環境美化意識を高める。</p> <p>概ね急峻な場所で、不法投棄のゴミも多く、大型のものが多い四国霊場の山間部の遍路道を専門重機(クレーン車、ダンプ車等)を保有している協会員企業と地元住民が協働して清掃活動を行う。</p> <p style="text-align: center;">清掃場所: 85番札所 八栗寺遍路道(高松市牟礼町)</p>
3	かがわ自然観察会 代表 好井智子	<p>瀬戸内海国立公園内にある五色台において、毎月、「五色台自然楽校」を開き、植物、動物、昆虫などを観察し、地球温暖化による影響や地球温暖化防止に果たす森林の役割について考え、身近な生活の見直しを通して省エネなどを行う意識を持ち、実践するよう啓発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放置された竹林において、竹の伐採を行い、切った竹を利用して食器(箸、お椀)を製作</li> <li>・木々の中からみついた蔓を取り除いて、かごを編んだり、リースを作ったり、自然素材を利用するエコ生活の方法を体験</li> <li>・春は新芽を利用した草団子、秋は木の実のお菓子作りなど、自然の恵みを味わい、自然の命の意味を考える</li> </ul>
4	有明浜の海浜植物を観察する会 会長 小西武利	<p>スナビキソウ、ハマウツボ、ウンランなど貴重な数多くの海浜植物が成育し、瀬戸内海では最大規模の海浜植物群落を有する観音寺市の有明浜において、定期的にゴミ拾いや有害外来植物の除去を行うとともに、一般市民を対象に観察会や研究者を招いての講演会を開催。</p> <p>また、長距離の渡りをする蝶として知られる「アサギマダラ」の渡りの地が地球温暖化の影響で北上している。観音寺市ではスナビキソウを保護、伊吹島ではフジバカマを栽培し、このアサギマダラが飛来する地域として目を向けてもらうことにより、自然保護、ひいては地球環境の問題に関心を惹く。</p>
5	かがわ木造塾 代表 小松 秀行	<p>一般県民を対象に、環境への意識向上と山での林業を実際に体験する講座「森林体験ツアー」を開催し、森に触れることで、自然の意味を考え、木を使うことで自然の循環を考える場を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林内での座学、林の散策、森林施業体験(間伐、枝払い、玉切り)を実施。その後、ヒノキの間伐材を使ったキノコ栽培を見学、植菌体験や育ったキノコを試食(まんのう町)</li> </ul>

No.	補助金交付団体	事業の内容 (要約)
6	ざぶん賞中国四国地区 実行委員会 委員長 岩崎正朔	水の環境を守ることの大切さを考えてもらうため、小中学生を対象に、水に関わる身近なことから環境問題や安全、生命などのテーマで創作文(作文、童話、詩、手紙など)を公募(全国)し、地区組織として高松市において香川県の小中学生の優秀作品を表彰、全国大会の優秀作品の展示、講演会(ざぶん塾)を開催することにより、「水」、「環境」等の大切さを参加者、来館者に気付いてもらう。
7	一般財団法人 香川県婦人 団体連絡協議会 会長 野田法子	レジ袋の使用量を削減し、地球温暖化の主要原因となるCO2の排出を抑えるとともに、ごみの削減、原料となる石油の節約、自然界への影響を意識してもらうため、エコバックを500個を製作し、各都市の婦人会の会員に配布し、マイバッグ持参を促進する。(マイバッグ持参運動) その後、マイバッグの持参頻度や環境に対する意識調査を実施し、マイバッグ持参運動の効果を検証する。
8	特定非営利活動法人 こにふあくらぶ 会長 津久井進	近年、地球温暖化対策として森林の炭素吸収機能が注目されていますが、木材価格の低迷が続き、林業労働力の不足や運搬コストが賄われないため、手入れが行われず、放置される人工林が増えている。森林は間伐を行うことによって、残された木々は幹が太く健全な木に育ち、二酸化炭素の吸収・固定量は増加する。さらに、得られた間伐材を有効的に活用していくことで温暖化防止に貢献できる。 また、間伐することで残された木々は、大きく成長し根が強く張り、地すべり等自然災害の防止にもつながる。松尾神社等の3箇所において植林後35年から40年以上経過しており、林内整備(竹伐採)と間伐を実施。
9	食と交流を創造する学生プ ロジェクトともにキッチン 学生代表 宮谷亜香里	現代社会において、食品廃棄物の問題は解決すべき大きな社会問題のひとつであり、食品廃棄物の削減により、焼却処分量の削減につながり、地球温暖化防止に貢献することができる。 高松市内の交通の結節点であり、利用者も多い瓦町FLAG 8階市民交流プラザにおいて、家庭から排出される消費期限切れ前の食料品から、調理次第でおいしい料理を作ることを参加者自身が体験(調理)してもらい、食品廃棄物の削減に向けての意識を持つとともに、ソーシャル・ネットワーキング・サービスなどの手段を使って広く社会に情報発信する。
10	エコ丸スタッフの会 会長 大倉昭三郎	クリントピア丸亀のリサイクル啓発施設エコ丸工場の駐車場に設置されている鉄製フェンスの一部をキャンパスに見立てて環境保全に関わる壁画を描く。壁画のデザインは地元小中学生から広く募集し、壁画作成については地元養護学校生徒などの協力を得て行う。この事業について事前に記者発表を行い周知広報活動を十分に行うことにより、施設来場者だけでなく、地域住民に環境保全について深い認識をもってもらう。
11	3万4000人のキャンドル ナイトin小豆島実行委 員会 会長 黒島 啓	平成20年以来、今年は第12回「3万4000人のキャンドルナイトin小豆島」を開催。小豆島には88ヶ所霊場があり、そこで多くの廃ろうソクが発生する。捨ててしまえばゴミになってしまう廃ろうソクを、各種団体(青年団体を中心に、商工会、老人クラブ、婦人会、自治会など)や住民有志のボランティアにより、再度加熱し手作りろうソク(キャンドル)に変える。今年は、このキャンドル約7000個を会場(新設高校の建設により廃校となった小豆島高校跡地)に灯し、その灯りを楽しんでもらうとともに、参加者に環境保全への意識の向上と島民全員で垣根を越えて協力し合う地域づくりを行うという意識を根付かせる。
12	NPOグリーンコンシュー マー高松 代表理事 勝浦敬子	「MOTTAINAI(もったいない)大作戦」として、地域の祭りやイベント(小学校での合同文化祭など)で、「ごみステーション」を開設・管理し、ごみを持ち込んできた参加者に分別(どんぶり鉢、パンフレット紙ごみ、空き缶など)する作業を実際に行ってもらうことにより、ごみ分別(仕分け)に対する意識を高め、その重要性に気付いてもらう。また、講演会「ごみから都市を考える」(仮称)を開催し、地域住民に対して3Rの重要性を認識してもらう。

No.	補助金交付団体	事業の内容 (要約)
13	AMAMIファーム 代表 泉岳志	常盤倶楽部(高松市常盤町)において、環境をテーマにアート活動を行う泉岳志氏のアート作品展と講演会を開催するとともに、さぬきマルシェ会場(サンポート高松)において、竹、木の端材、伐採材料を使ったバイオマス燃料による簡易調理実演等を行うことにより、地球温暖化の削減や自然災害の可能性等について知り、自然との共生につながる活動を提案する。
14	栗林校区コミュニティ協議会 会長 松下保	特別名勝栗林公園を訪れる県内外の観光客は年間60万人を数え、年々増加している。同公園を取り巻く栗林地区の住民、地元企業、小学校児童・保護者・教職員、さらには観光客にも参加を依頼して、栗林公園の周辺(東門駐車場、東門歩道、地下道)の清掃活動を行う。(6月7月9月10月12月の計5回、第1日曜日に、対象者のうち都合のよい参加者を募り、清掃活動を実施する。10月22日(日)は「栗林公園おもてなしクリーン作戦」と名付け、全対象者に呼び掛け、清掃活動を実施する。)
15	善通寺こどもエコクラブ 代表 井上修	平成29年11月に、善通寺五岳の里市民集いの丘公園において、環境保全・福祉の増進・まちづくり・食育・衣育の17団体による普及啓発活動や体験活動を実施するESD地域交流会(かがわESDまつり)を開催。(昨年度は800名参加) ESD:世界の人々や、地球上の生き物、そしてこれから先の未来のことも考えて、みんなが幸せに暮らしていける地球にするために、私たち一人ひとりが気づき、主体となることができることを考え、行動するための学習や活動
16	オイスカ四国研修センター 所長 萬代保男	オイスカ周辺の竹林3箇所(個人が所有している管理できていないもの)において、募集したボランティアと一緒にオイスカ海外研修生(あわせて約20名)により、竹の間伐を行う。間伐した竹は粉碎し、有機栽培を行っている農家に肥料として提供する。
17	公益財団法人オイスカ四国支部 会長 石井淑雄	山火事により0.3ヘクタールを消失した「まんのう町 尾の瀬山」において、平成22年から、まんのう町外3市町の山林組合、仲南町森林組合と協定を締結し、協働で「尾の瀬山 オイスカ憩いの森」づくりを進めている。これまでヤマザクラ7,500本を植林したが、今年度はこれまでの植林地の(ヤマザクラの)補植と下草刈りを実施する。
18	鴨庄地域いきいきネット 会長 石原 均	明るく住みよい郷土づくりの中で、環境に関するさまざまな活動を通して、地球温暖化防止対策、環境保全の意識を高める。 ①婦人会、自治会が中心になり、JA会館、自治会館などで緑カーテンを作って、省エネ効果を体験してもらう。 ②休耕田を活用し、小学生による田植え・収穫の体験学習を行うほか、JA鴨庄支店と幼稚園との共同でさつま芋の栽培に取り組み、収穫物は学校や地域のイベントで活用する。 ③婦人会が中心になり、小学校(4年生対象)へ年一回、出前授業(廃油石けん作り)に出向く。 ④海岸や鴨部川の清掃、桜の植樹、花いっぱい運動を推進する。 ⑤タンスの中で使われていない衣類等を再利用して、文化祭等で展示、ファッションショー等でリサイクル利用を呼びかける。
19	さぬきの国脱温暖化協議会 会長 矢本賢	本協議会は、県内で初めての温暖化防止活動のための地域協議会として、今年5月に環境省に登録された団体。今後、温暖化防止活動を円滑に推進するため、認知度向上に向け、協議会の基盤となる備品(印、会旗、名刺、上着、パネル)などの整備、案内パンフレットの作成、各自治体等への訪問PR活動、会員の技術向上研修会のほか、各種イベント(出前授業、パネル展、うちエコ診断など)を実施する。